

# 市民活動をサポート！新サービス開始しました！

照会先 市民活動センター ☎ 24-7772

市民活動団体にとって、広報周知は最も苦労するところではないでしょうか。チラシを作ることは簡単でも、そのチラシをさまざまな施設に置くことを依頼するのはかなり大変です。

そこで新たなサービスとして、イベントなどのチラシを市民活動センターにお持ちいただければ、市内の公共施設(市役所、わかさ・プラザ、図書館、各生涯学習センターの計8施設)へ、当センターからお届けします。

お持ちいただいたチラシは、そのまま各施設の「市民活動情報ラック“おどろ木”」へ置かれますので、ぜひご利用ください。

- ◆枚数 80～160枚を目安にお持ちください。(例 20枚×8施設=160枚)
- ◆対象 市内のボランティアおよび市民活動団体
- ◆その他 ▷市民活動センターへの登録が必要です。(無料)  
▷市民活動センター広報支援基準により内容を精査し、お断りする場合があります。  
▷会報などは対象外とします。イベント、講習会などの開催チラシが対象です。

## 週末プチイベント「親子でクッキーをつくろう」

- ◆日時 10月30日(土) 午前10時30分～正午
- ◆場所 安桜ふれあいプラザ
- ◆定員 10組
- ◆参加費 材料代として1組500円
- ◆担当 せき・まちづくり NPO ぶうめらん
- ◆申込先 市民活動センター ☎ 24-7772  
ホームページ <http://www.seki-siminkatudo.com/>

広瀬惟然300回忌特別連載③

## 「惟然の顕彰活動、句碑の紹介」

関村の俳諧は昔より盛んであったが、今日まで連綿と続いたことのできる「鳥落社」(旧関俳諧社)の大きな活躍があったことが特筆されねばならない。「鳥落社」とは、惟然の別号鳥落人より名付けられた、惟然顕彰のための俳諧結社である。新長谷寺の本堂裏手の芭蕉没後100年を記念して建てられた「百年塚」にもその足跡がうかがえる。元禄2年(1689年)、芭蕉が5カ月にもわたる『おくの細道』の旅装を、おすびの地である大垣で解くや、惟然は小瀬湊から舟に乗り破れ衣を川風になびかせながら逢いにいった。大垣の宿である知行邸には大勢の門人が集まっていたが、惟然はまたしても芭蕉と2人だけで語る機会を得た。惟然が、その昔飯尾宗祇が関を通った時、山寺に咲く藤の花を愛く、句を作ったことなど話すと、感動した芭蕉は「宗祇が詠んだ藤の花は盛りを過ぎて今では実を付けているでしょう。私はあてやかな花よりも、おしろ、わびしい感じの実の方を俳諧に詠みたいものです。」と、次の句を詠んだ。

藤の実は俳諧にせん花の跡 芭蕉

百年塚の右側面に「藤の実は……」の句を、左側面には木犀庵土龍の碑文が、背面には、「寛政五癸丑 八月十二日 関俳諧社中」と刻まれている。このように芭蕉を顕彰することは、すなわち惟然を顕彰することであった。ちなみに元禄7年惟然は赤貧の中、句集を上梓するがその題名を『藤の実』とした。

次に市内の句碑を羅列する。

明和6年 弁慶庵に門下連中建立  
はなるれば軒に声なし秋の風 李仁居士

天保14年 弁慶庵に露牛、里樵建立  
鶯や柳のうしろ藪の前 はせ越(芭蕉)翁

文久3年 常光寺に柳枝建立  
松杉をほめてや風のかほる音 はせを

慶応元年 弁慶庵に露牛建立  
はつ雪や樹にはさらさら音のして 而后

明治26年 弁慶庵に枝仙建立  
稲の香や今朝は伊吹も軒の山 露牛坊

大正4年 千手院に三守建立  
さぞきぬた孫六屋敷志津やしき 其角

(裏面) 汲にけりいく秋鍛冶の七流 三守

大正5年 弁慶庵に山川定右衛門建立  
かうるるも大切な日ぞ花盛 惟然

鳥落社は、歌仙を巻いたり、記念句集を出版したりして、それぞれの年忌を修めてきた。

(惟然研究家・俳人 沢木美子)



◎史話には諸説あります。また、限られた文字数の都合上、表現・表記が簡略化される場合があります。

広瀬惟然300回忌俳句大会実行委員会  
事務局 文化課 (☎246455)